

茨城大学工学部 都市システム工学科 令和5年度前期 学科教育点検報告書

令和5年 10月 16日

報告者 都市システム工学専攻 専攻長 藤田昌史

1. 実施日時と場所

第1回 令和5年9月26日（火）8:40～14:20 Teams によるオンライン会議

2. 出席者

常勤教員：遠藤克彦，熊澤貴之，桑原祐史，小林薫，信岡尚道，原田隆郎，平田輝満，藤田昌史，山田稔，横木裕宗，榎本忠夫，久野靖広，車谷麻緒，辻村壮平，肥田剛典，稲用隆一，増永英治，一ノ瀬彩，大村高広，吉田友紀子（全常勤教員20名のうちの20名が出席）

非常勤教員：出席なし

技術職員，事務職員：出席なし

3. 添付資料

資料1-1 2023年度（前期）教育改善委員会議事録

資料1-2 都市システム工学科_専攻 FD 研修会議事録

資料2 2023年度（前期）学科・専攻教育改善委員会およびFD研修会議事次第

資料3 2023年度前期 授業点検改善表集

4. 授業点検の実際

4. 1 アンケート実施状況

点検評価に先立って実施した，授業アンケートの回収状況は以下のとおり。

常勤教員担当科目分： 20科目／常勤教員担当科目総数 20科目

非常勤教員担当科目分： 0科目／非常勤教員担当科目総数 0科目

4. 2 点検した科目

地盤防災工学特論，応用土質力学特論，土木計画学特論，建築都市計画学特論，構造解析学特論，建築環境設計学特論，応用水理学特論Ⅰ，水質工学特論，建築都市デザインスタジオⅠ，建築史・意匠特論Ⅰ，建築都市デザインスタジオⅡ，社会基盤デザイン特別演習Ⅰ，社会基盤デザイン特別研究Ⅰ，建築デザイン特別演習Ⅰ，建築デザイン特別研究Ⅰ，サステイナビリティ学特別演習Ⅰ，サステイナビリティ学特別研究Ⅰ，サステイナビリティ学最前線，ファシリテーション能力開発演習Ⅰ，ファシリテーション能力開発演習Ⅱ
の20科目

前期に開講した専門科目（前期集中科目 2 科目を除く）の総数 20 科目中 20 科目（100%）
＜2023 年度後期 FD で点検を行う科目＞

- ・ 国際実践教育演習
- ・ 国内実践教育演習

※前期集中科目のため、例年後期 FD で点検を行っている

4. 3 具体的な点検方法

前期に開講した 20 科目中 20 科目について、以下の方法で点検を実施した。各科目の具体的な点検結果は、資料 1-1 の議事録における「点検評価と結果」を参照のこと。

・ 3～5 科目程度のグループ（資料 2 参照）ごとに、各授業担当の教員が担当科目の授業点検改善表（資料 3）等の資料に基づいて、特に前年度の点検評価で出された各科目の課題・問題に対する対応実績について説明し、それに対しての参加教員全員からの質疑・コメントを受ける形で、実施した。

・ 随時、提出済みの電子データや、茨城大学 FD/SD 支援システムを参加者が各自で確認し、それに関しても必要に応じ議論した。

・ ファイル提出された教員間ネットワークの活動状況（学部の授業点検に用いたものと同じもの）についても、確認した。

4. 4 （専攻の点検報告書のみ）特別実験、特別演習等の実施状況など

社会基盤デザイン特別演習 I，建築デザイン特別演習 I，サステイナビリティ学特別演習 I，社会基盤デザイン特別研究 I，建築デザイン特別研究 I の 5 科目については、「①実施内容と状況」，「②実施の証拠と保存状況の確認」，「③成績評価の方法」を所定の書式にまとめた報告書を点検した。

内容については 資料 3 授業点検改善表集 に収録のとおりである。

5. 点検評価の結果

5. 1 昨年度の点検評価で出された改善策のフォローアップ

点検を行った全ての科目において、昨年度に改善すべき問題点は改善されていたことが確認された。

5. 2 今回の授業方法で優れている点

応用土質力学特論では、中間アンケート（回収率は 90%以上）では、配布資料、授業スピード、授業中の小テストなど概ね問題なかった。授業外学修の時間数が概ね 1～2 時間/回（80%超）であることを考えると、現状が適度であると考えられる。

建築都市デザインスタジオ I では、水戸中心市街地の駐車場をテーマに取り上げた。現況調査から空間の提案まで全員がモチベーション高く取り組み、成果も良好と考える。授

業に特に問題はなく、学生からは口頭でポジティブな意見をもらった。

5. 3 今回の授業方法で改善すべき点

反転授業を実施した授業では、理論の説明のグループワークにおける話し合いは活発であったが、学習成果がついてこなかった。また、具体的な計算問題については、正解を学生らが見つけ議論して定めることを意図したが、時間をかけても成果が乏しかった。

また、いくつかの授業において最終授業アンケートの回収率を高めることが課題であることが確認された。

6. 教育改善活動

詳細は、資料 1-2 参照。

JABEE の認定審査に向けて、方針やスケジュール、進め方が提示され、学科構成員に共有された。授業における成績評価の方法について明確にすべきことや、授業アンケートをふまえた上での学生へのフィードバック方法について確認がなされた。また、学生・OB・OG に対するアンケートの内容も示され、都市システム工学科・専攻での教育方針が概ね良好な評価結果であったことが確認された。

7. 報告書の開示

この報告書と同じ内容の書類を Teams 内に設置した学科 FD チャンネルに保管し、学科の全教員が自由に閲覧できるようにした。

8. 『産学連携カリキュラム改良委員会』を受けての教育改善活動について

直近の産学連携カリキュラム改良委員会では、建築の構造分野における土木・建築の融合教育についてご意見をいただいた。現状の授業内容について土木・建築で共通する内容や、融合教育のメリットなどを整理し、今後の授業内容の改善について引き続き検討を続けることになった。

9. その他

特になし。